

ひかりのこ

3月園便り

聖ミカエル幼稚園

2013年2月22日発行

月主題：ありがとう

年長さんの卒園の時期が近づいてまいりました。こんなかわいい子どもたちと一緒に過ごせるのもあとわずかなのだ、と思うとさみしさがこみ上げてきます。また、いつも笑顔で幼稚園に顔を出してくださったお父さんやお母さん方ともお別れしなくてはなりません。保護者の皆様にはお世話になりました。運動会、おゆうぎ会、バザーなどの行事ではいつも快くお手伝いをしてくださいました。ありがとうございました。

私の長男はこの春就職し、家を離れ、私の一人目の子育ては終わります。大きなおなかで中学校の教員として教壇に立ったこと、日をまたぐ難産でやっと出てきたわが子に直面した途端、苦しさなどすべて忘れたこと、咳が止まらず一晩中抱っこして夜を明かしたこと、受験の時、本人と同じくらい不安だったこと、高校の部活動でスランプに苦しむ姿を見ているだけで何もできなかったこと、いろいろ思い出します。本当に不器用で大した親ではなかったせいか、その分自立心の強い気の優しい人間に育ったようです。これからの厳しい社会で耐え抜いていけるかどうかはわかりませんが、あとは自分で人生を切り開いていくことでしょう。思えば、子育てに関していつも私は一人ではありませんでした。夫や、おじいちゃんおばあちゃん、保育園や小中高の先生方、お母さん仲間、そして神様の存在。みんなに助けられながらの子育てでした。

保護者の皆さんの子育てはまだまだ続きます。子育ては楽しい良いことばかりではありません。でも、楽しいことも苦労したことも、すべて皆さんの、またお子さんの人生の糧となることでしょう。そして子育てで出会った仲間はかけがえのない宝物となるでしょう。どうぞこれからも聖ミカエル幼稚園や教会が皆さんの心の支えとなり、いつでも帰ってこられる場所でありませうように。

卒園おめでとうございます。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

南アフリカ共和国は人種差別や経済的な格差の激しさ等、色々な社会問題で頭を悩ましています。が、その中でも珍しいほど犯罪率の低い地域があるそうです。そこは、南アフリカ共和国の先住民族の一つである、「バベムバジョク部族」が生活している地域です。この地域だけ、不思議に思われるほど犯罪率が低い理由を社会学者たちが調べて見てわかったのは、「バベムバジョク部族」の不思議な伝統です。この部族では、昔から、ある人が偶々過ちを犯せば、村の人々は皆、仕事を中断して、老若男女を問わず、広場に集まります。そして、過ちを犯した人を大きな輪になって囲ま立ちます。そして(どうするのでしょうか。)、一人ずつ順番に、集まった村の人々皆が聞こえるほどの大きな声で、罪を犯した人が過去に行った良いことを一つずつ言うそうです。「彼の長所はあれこれです。」「彼は以前私にあれこれの善行を施してくれました。」等、彼が以前行ったいい行いと美談が一つ一つ列挙されます。幼い子供まで漏れなく言います。勿論、そこに誇張や冗談のような雰囲気は一切ありません。一人一人が真剣に彼を賞賛する言葉を上げなければなりません。これが、判事も検事もなく、弁護士だけが数百人集まっている「バベムバジョク部族」の法廷の雰囲気だそうです。聖ミカエル幼稚園で行っているキリスト教保育の基本は、子どもは叱責じゃなく、愛によって成長するということです。神様の愛に包まれ伸びていく子どもたちの日々を共に見守っていきましょう。

チャブレン ジョシュア 司祭 李 香男